

徳島県

# 埋蔵文化財センター年報

Vol.14 2002年度

2003

徳島県埋蔵文化財研究会



玦状耳飾（由岐町田井遺跡）



集石遺構（由岐町田井遺跡）



埋納鉄出土状況（寺山遺跡）



平安時代の据立柱建物跡群（立江柳ノ内遺跡）

## はじめに

本書は平成14年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業の概要をまとめたものであります。

14年度は、大規模な埋蔵文化財発掘調査が一段落し、当センターの事業の中心が、調査から整理作業と報告書刊行にシフトしつつあります。

即ち、報告書は、第33集「矢野遺跡（I）《第2・3分冊》、第44集「矢野遺跡（II）《縄文時代篇》」など合計5冊の報告書を刊行いたしました。

また、主な調査事業では、園瀬川改修事業に係る寺山遺跡で、埋納銭造構と約3,700枚に及ぶ埋納銭が出土し、剥ぎ取り複製（レプリカ）をもとに当センターで説明会を持ちました。また、第4・第5造構面と流路調査を次年度に継続することといたしました。

一般国道55号日和佐道路（田井地区）関連の由岐町田井遺跡では、縄文前期末から中期前葉にかけての土器や、石斧を中心とした石器が大量に出土し、貴重・稀少な遺跡として注目されました。そして、多数の参加者を得ての現地説明会を実施することができました。

普及事業では、今年度新たに郷土文化教育教材整備事業としてCD-ROM『探訪！ふるさとの史跡』を作成し、県下すべての小・中学校及び県立学校へ配布いたしました。また、体験活動用屋外テントと体験用具庫を整備いたしました。これにより「石器作りと火おこし」等の体験活動は、雨天時も大人数来館時にも対応可能となり好評を博しております。なお一層の効果的活用を図つて参りたいと考えております。

最後になりましたが、関係各位並びに関係機関に御礼申し上げるとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 松村通治

## 目 次

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	4
II 平成 14 年度事業概要	5
III 調査事業報告	8
県単独事業等関連発掘調査	
中徳島町 1 丁目遺跡	12
敷地遺跡（第 1 分割）	13
敷地遺跡（第 2 分割）	15
寺山遺跡	16
町口遺跡	18
桑野谷遺跡	19
立江馬渕遺跡	20
田宮遺跡	22
外部委託事業関連発掘調査	
中庄東遺跡	23
東州津遺跡	24
由岐町田井遺跡	25
試掘調査	27
由岐町木岐遺跡　八万犬山遺跡	
圃場整備事業関連調査	28
立江柳ノ内遺跡　椿地遺跡	
遺跡地図整備事業	30
IV 整理事業報告	31
V 埋蔵文化財センターの活動	33

## 例 言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成 14 年度事業をまとめた年報である。
- 2 III調査事業報告に関する地形図は国土地理院発行 1 / 50,000 地形図を転載したものであり、各図に図幅名を記した。
- 3 III調査事業報告の概要是各担当が執筆し、その責を文末に記した。

## 平成 14 年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

### 役員

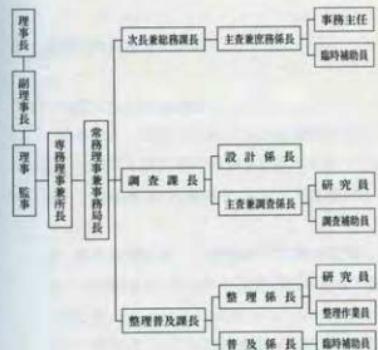
理事長  
松村 通治 県教育長  
副理事長  
河野 博喜 県教育次長  
専務理事  
本淨 敏之  
常務理事  
西村 和博 県教育委員会参事  
理事  
岡田 一郎 徳島県文化財保護審議会委員  
日下 雅義 徳島文理大学文学部長  
山川 正雄 県教育委員会教育総務課長  
塩原 志誠 県教育委員会教職員課長  
福家 清司 県教育委員会文化財課長  
梶原 政明 県土整備部県土整備政策課長  
監事  
高木 直規 県副出納長  
多田 実 県教育委員会生涯学習課長

### 所長

本淨 敏之  
事務局長  
西村 和博  
総務課  
次長兼総務課長  
主査兼係長  
事務主任  
山本 高史  
福本紀美子  
布川 純子  
鈴木 智栄

### 職員

調査課	菅原 康夫
調査課長	原田 敏夫
設計係長	新居 文和
主査兼調査係長	深田 晃司
研究員	喜多 啓二
	松田 貢
	井藤 良雄
	岩佐 正人
	川村 哲夫
	梶河 智江
	須崎 一幸
	小川 勝幸
	森岡 基司
	豊田 周作
	原 芳伸
	大橋 育順
	島田 豊彰
	島巡 賢二
	貞野 保仁
	久保脇美朗
	小泉 信司
	岡山真知子
	高橋 栄子
	山本 和弘
	金森 映人
	佐藤美和子
	栗林 誠治
	田川 憲
	幸泉 満夫
	青木 秀明



### 整理普及課

整理普及課長	島巡 賢二
整理係長	貞野 保仁
主任研究員	久保脇美朗
	藤川 智之
	小泉 信司
	氏家 敏之
	岡山真知子
	新居 照代
	高橋 栄子
	斎藤 剛
	山本 和弘
	四宮 玲子
	金森 映人
	田所 寧治
	佐藤美和子
	折野 佳子
	栗林 誠治
	大北 和美
	岳彦
	田川 憲
	植地 岳彦
	幸泉 満夫
	青木 秀明

### 普及係長

## I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

### 1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

### 2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

### 3 設立年月日

平成元年4月1日

### 4 出資者

徳島県

### 5 基本財産

10,000千円

### 6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2

## II 平成 14 年度事業概要

### 1 理事会の開催

#### 第 50 回臨時理事会

開催日 平成 14 年 4 月 1 日  
議案 役員の選任について  
組織規定の改定について

#### 第 51 回通常理事会

開催日 平成 14 年 6 月 17 日  
議案 平成 13 年度事業報告について  
平成 13 年度事業収支決算について  
平成 13 年度未処分剩余金の処理について

#### 第 52 回通常理事会

開催日 平成 15 年 3 月 27 日  
議案 平成 14 年度事業収支予算の補正について  
平成 15 年度事業計画案について  
平成 15 年度事業収支予算案について  
役員の改選等について

### 2 事業の実施状況について

#### (1) 埋蔵文化財発掘調査

徳島県から委託を受け、次の発掘調査を行った。

- ① 加茂第 1 地区堤防の事業に伴う埋蔵文化財調査で、1 遺跡 23624 m<sup>2</sup> の発掘調査を実施した。
- ② 一般国道 32 号井川 IC 関連改良工事に伴う埋蔵文化財調査で、1 遺跡 345 m<sup>2</sup> の発掘調査を実施した。
- ③ 徳島南環状線（大野地区）関連埋蔵文化財調査で、1 遺跡 240 m<sup>2</sup> の試掘調査を実施した。
- ④ 一般国道 55 号日和佐道路（田井地区）関連埋蔵文化財調査で、1 遺跡 907 m<sup>2</sup> の発掘調査を実施した。
- ⑤ 一般国道 55 号日和佐道路（木岐地区）関連埋蔵文化財調査で、1 遺跡 295 m<sup>2</sup> の試掘調査を実施した。
- ⑥ 徳島県事業に伴う埋蔵文化財発掘調査  
建設事業の工事予定箇所で、67839 m<sup>2</sup> の調査を実施した。

- ・徳島環状線（国府工区）建設工事に伴う埋蔵文化財調査で、31,284 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・徳島県立城東高等学校校舎改築工事関連埋蔵文化財調査で、4,484 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・道路改築事業（宮川内牛島停車場線）関連埋蔵文化財調査で、684 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・広域基幹河川改修事業（園瀬川）関連埋蔵文化財調査で、23,631 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・南部健康運動公園建設事業関連埋蔵文化財調査で、931 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・阿南小松島線住宅地開発公共施設等整備促進・緊急地方道路整備合併事業関連埋蔵文化財調査で、2,440 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・県営圃場整備事業（立江柳渕地区）関連埋蔵文化財調査で、3,500 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・県営圃場整備事業（福井地区）関連埋蔵文化財調査で、750 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・緊急地方道路整備事業（常三島・中島田線）関連埋蔵文化財調査で、135 m<sup>2</sup>の発掘調査を実施した。
- ・遺跡地図整備事業で、麻植郡、名西郡、名東郡の全域、板野郡、徳島市の一帯 45,927 km<sup>2</sup>の遺跡精密分布調査を実施した。

## (2) 出土文化財整理

徳島県から委託を受け、次の出土文化財の整理業務を行った。

- ① 四国縦貫自動車道建設工事関連で、出土文化財 1,540 箱の整理業務を実施した。
- ② 四国横断自動車道建設工事関連で、出土文化財 140 箱の整理業務を実施した。
- ③ 一般国道徳島南環状線道路改築事業関連で、出土文化財 280 箱の整理業務を実施した。
- ④ 徳島県等の事業関連出土文化財整理
  - ・県営住宅（石井曾我團地）建設工事関連で出土文化財 210 箱の整理業務を実施した。
  - ・徳島公共職業安定所・徳島障害者センター建設工事関連で、出土文化財 140 箱の整理業務を実施した。
  - ・道路改築事業（宮川内牛島停車場線）関連で、出土文化財 70 箱の整理業務を実施した。
  - ・県代行緊急地方道路整備事業（町道光下新町線）関連で、出土文化財 140 箱の整理業務を実施した。
  - ・道路改良事業（出口太刀野線）関連で、出土文化財 280 箱の整理業務を実施した。

## (3) 発掘調査報告書の発刊

発掘調査結果を報告書として作成し刊行した。

- ・矢野遺跡（I）（徳島南環状線改築事業に伴う出土埋蔵文化財整理）
- ・矢野遺跡（II）（徳島南環状線改築事業に伴う出土埋蔵文化財整理）
- ・丸山遺跡（四国縦貫自動車道建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
- ・石井城ノ内遺跡（県営住宅（石井曾我團地）建設工事関連出土埋蔵文化財整理）
- ・徳島城下町遺跡出来島本町1丁目地点（徳島公共職業安定所・徳島障害者センター建設工事関連出土埋蔵文化財整理）

(4) 普及・啓発活動

- ① 埋蔵文化財速報展・企画展「2002 発掘とくしま」を開催した。
- ② 埋蔵文化財移動展を三加茂町で開催した。
- ③ 発掘調査成果報告会および関連の講演会を開催した。
- ④ 由岐町田井遺跡他で、現地説明会・遺跡体験見学会等を実施した。
- ⑤ 市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会を開催した。

3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成14年度収支決算は次のとおりである。

(1) 収入の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 基本財産運用収入	1,000	1,008	8	
2 事 業 収 入	1,769,025,000	1,769,025,000	0	
3 雜 収 入	30,000	30,868	868	
4 繰 越 金	5,657,090	5,657,090	0	
合 計	1,774,713,090	1,774,713,966	876	

(2) 支出の部

(単位 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比 較	備 考
1 事 業 費	16,415,586,000	16,415,581,200	△ 4800	
2 管 理 費	89,093,090	86,887,147	△ 2,205,943	
3 そ の 他 支 出	4,625,000	4,624,030	△ 970	
4 消 費 税	39,409,000	39,408,800	△ 200	
	1,774,713,090	1,772,501,177	△ 2211,913	

### III 調査事業報告

平成14年度は、同年4月1日付で締結した業務委託契約書に基づき、遺跡地図整備事業を含め、それぞれの事業に関連した15調査を実施した。今年度は外部委託事業関連の大規模な発掘調査が減少し、調査事業全体の縮小傾向が顕著となった。

由岐町田井遺跡では、今から約5000年前の縄文時代前末期から中期前葉にかけての土器が多く出土した。これは県内はもとより西日本における土器編年研究に重要な資料となる。また結晶片岩製石斧やその素材・未製品が出土したことにより、本遺跡において石斧製作が行われていたと考えられる。さらに石材の入手には海上ルートによる遠距離交流が想定される。水晶製線刻工具・三脚石器のような稀少な遺物、さらに玦状耳飾りの出土などは注目される。

寺山遺跡では、第1造構面（13世紀後半～14世紀前半）で埋納銭が検出された。発掘調査で確認され埋納方法の詳細が判明した例は本県では初めてである。銭種53種3699枚を数える。なお、当センターで埋納銭（剥ぎ取り複製レプリカ）を公開し、寺山遺跡と埋納銭造構に関する説明会を実施した。

調査地点の西に位置する独立丘陵は、平安時代創建で長曾我部阿波侵攻時に消失、庵寺となつた金剛光寺が所在したと伝えられる。調査の結果、鎌倉時代前半期の多数の柱穴（掘立柱建物跡）、大量的土師器溜まり、石敷造構、石組造構を検出し、寺に関連する遺構の存在が示唆された。しかし、新しい時期の造構密度は希薄で、金剛光寺の所在を直接裏づける遺構・遺物の確認には至らなかった。また、古墳時代後期の竈をもつ竪穴住居跡群や、弥生時代終末期の自然流路などは、来年度に継続調査することとした。

敷地遺跡は第1分割と第2分割に分けて調査を行ったが、全体で遺物総点数145,000点を数えた。7世紀初頭の竪穴住居跡、7～8世紀の約80基の土壙墓、8～9世紀の大型掘立柱建物跡群、条里区画がのこる9～11世紀の水田、8世紀後半と9～10世紀の2つの時期の自然流路などを検出した。

中東遺跡は、古代の造構面と中・近世造構面を確認した。古代の造構面では掘立柱建物跡、赤色塗彩土器や花卉双蝶八花鏡が出土し、付近に官街が存在することが濃厚となった。さらに条里溝を確認し、古代のこの地域の地割りを考える貴重な資料となった。中・近世造構面では建物跡とみられる礎群やその周辺に焼土の括がりを検出し、鏡台の一部とみられる蘇手状銅製品などが出土した。

立江馬渕遺跡と立江柳ノ内遺跡の調査は、平安時代を中心に掘立柱建物跡や土器・陶磁器などが確認できた。立江地区の調査は、勝浦川以南、ひいては数少ない県南部の発掘調査資料として注目すべきものとなった。

他に、中徳島町1丁目遺跡、町口遺跡、桑野谷遺跡、田宮遺跡、東州津遺跡、椿地遺跡を本調査として発掘し確認した。また、八万犬山遺跡、由岐町木岐遺跡を試掘調査した。

県単独事業等関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	中徳島町1丁目遺跡（徳島県立城東高校校舎改築事業）	徳島市中徳島町1丁目5	1,121 m <sup>2</sup> (調査面積) 4,484 m <sup>2</sup> (延べ面積)	14. 4. 1 ~ 14. 8. 31	●江戸時代	礎石建物 挖立柱建物・石組溝・石列・埋葬遺構・掘立井戸 溝池状遺構・土坑・柱穴	陶器 磁器 瓦 金属製品 石製品 土製品 木製品
2	敷地遺跡（道路改築事業－徳島環状線国府工区）	第1分割 徳島市国府町桜間25-1他	9,131 m <sup>2</sup> (調査面積) 18,262 m <sup>2</sup> (延べ面積)	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	●古墳時代 ●飛鳥時代 ●奈良時代 ●平安時代 ●鎌倉時代 ●室町時代	堅穴住居 挖立柱建物・土壙墓・柱穴 土坑 水田 流路 溝状遺構	土師器 須恵器 黒色土器・土錐・砥石・金属製品 木製品 瓦
		第2分割 徳島市国府町池尻宇西塚心さ312他	7,750 m <sup>2</sup> (調査面積) 13,022 m <sup>2</sup> (延べ面積)		●古墳時代 ●飛鳥時代 ●奈良時代 ●平安時代 ●鎌倉時代 ●室町時代	掘立柱建物 土壙墓 土坑 水田 流路 溝状遺構	土師器 須恵器 黑色土器・土錐・石製品 金属製品 木製品
		1 2分割合計	16,881 m <sup>2</sup> (調査面積) 31,284 m <sup>2</sup> (延べ面積)				
3	寺山遺跡（広域基幹河川－園瀬川－改修事業）	徳島市八万町寺山71他	10,128 m <sup>2</sup> (調査面積) 23,631 m <sup>2</sup> (延べ面積)	14. 4. 1 ~ 15. 3. 31	○弥生時代 ○古墳時代 ○飛鳥時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	埋納鉢遺構 挖立柱建物・井戸・敷石造構・石組溝・大溝・土壙墓・土坑・土器溜まり・柱穴・自然流路	銅鏡 銭貨 瓦器・土師器 須恵器 青磁・白磁・黒色土器・綠釉陶器 弥生土器
4	町口遺跡（道路改築事業－宮川内牛島停車場線）	板野郡吉野町西条字町口34-3他	684 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 11. 1 ~ 15. 1. 31	●古墳時代	柱穴 土坑 溝	土師器 須恵器 陶磁器
5	桑野谷遺跡（南部運動公園建設事業）	阿南市桑野町桑野谷15他	931 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 7. 1 ~ 14. 9. 30	○平安時代	自然流路	土師器 須恵器 陶器・銅製品・鐵製品・木製品 塩化物 植物種子
6	立江馬渕遺跡（阿南小松島線住宅用地開通公共施設等整備促進事業開通緊急地方道路整備事業開通）	小松島市立江町馬渕111他	住宅用地開通公共施設等整備促進事業開通 緊急地方道路整備事業開通 合計 2,270 m <sup>2</sup> 170 m <sup>2</sup> 2,440 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 4. 1 ~ 14. 10. 31	○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代	溝・土坑・柱穴・自然流路 挖立柱建物	土師器 須恵器 黑色土器・綠釉陶器 白磁・瓦器・木製品・金属製品
7	田宮遺跡（緊急地方道路整備事業－常三島中島線）	徳島市南田宮三丁目3-38他	135 m <sup>2</sup> (本調査)	15. 2. 1 ~ 15. 3. 31	○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代 ○江戸時代	土坑 柱穴 自然流路	土師器・青磁・瓦器・須恵器

### 外部委託事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
8	中庄東遺跡（加茂第1地区堤防事業）	三好郡三加茂町 中庄445他	14,462 m <sup>2</sup> (調査面積) 23524 m <sup>2</sup> (延べ面積)	14. 4. 1～15. 3. 31	○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代 ○室町時代 ○江戸時代	柱穴 挖立柱建 物 積穴住居 炉跡 土坑 土 塚 溝 自然 流路 集石遺構	石器 石製品 土師 器 須恵器 陶磁器 瓦器 銅製品 鉄製 品 銭貨
9	東州津遺跡（一般国道32号井川IC関連改良工事）	三好郡池田町洲 津西ノ久保309 番地1他	345 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 11. 1～14. 12. 31	○弥生時代 ○鎌倉時代 ○室町時代	自然流路	土師器 須恵器 石 器・石飾・土鍬・瓦石 ・木製品 土器片
10	由岐町田井遺跡 (一般国道55号日和佐道路－田井地区)	海部郡由岐町田 井字久保668他	907 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 4. 1～14. 6. 30	○绳文時代	集石遺構 燃土 面・土坑状遺構・ 柱穴 沼跡	绳文土器 石器 石 製品 装飾品 水晶 製線刻工具 三脚状 石器
11	八万犬山遺跡（徳島南環状道路改築事業－大野地区） 試掘	徳島市八万町大 野117-1他	11,000 m <sup>2</sup> (試掘対象面積)	15. 3. 1～15. 3. 31	なし	なし	自然木
12	由岐町木岐遺跡 (日和佐道路改築事業－木岐地区) 試掘	海部郡由岐町木 岐字木本647-1他	8,000 m <sup>2</sup> (試掘対象面積)	15. 2. 1～15. 2. 28	なし	なし	なし

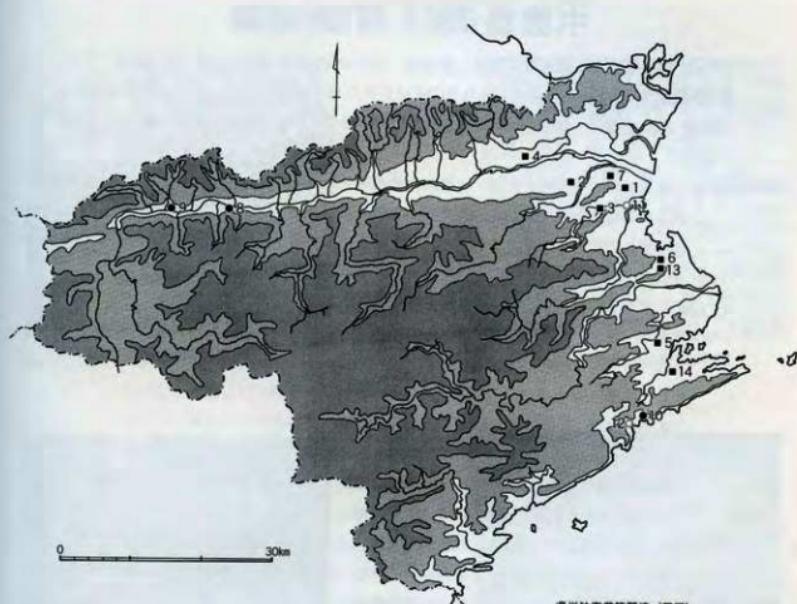
### 圃場整備事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
13	立江柳ノ内遺跡 (県営圃場整備事業－立江柳測定地区)	小松島市立江町 柳ノ内84地	3,500 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 10. 1～15. 3. 31	○飛鳥時代 ○奈良時代 ○平安時代 ○鎌倉時代	土坑 柱穴 自 然流路 溝 井 戸 挖立柱建物	土師器 須恵器 緑 釉陶器 灰釉陶器 白磁・瓦器・木製品 石帯
14	椿地遺跡（県営圃場整備事業－福井川地区）	阿南市福井町宮 宅43-1他	750 m <sup>2</sup> (本調査)	14. 6. 1～14. 8. 31	○鎌倉時代 ○室町時代	柱穴 土坑 溝 水利遺構 沼跡	土師器 須恵器 陶 磁器 瓦器 加工木

### 遺跡地図整備事業

No.	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
15	分布調査	麻植郡・名西郡・ 名東郡の全域と 板野郡 徳島市 の一部	45,927 km <sup>2</sup>	14. 4. 1～15. 3. 31			

◎主体となる時期



県単独事業等開道 (■□)

外部委託事業開道 (●○)

\*黒ぬり記号は本綫、白ぬき記号は試掘地点

#### 発掘調査地

## なかとくしまちょういつちょうめ 中徳島町1丁目遺跡

**所在地** 徳島市中徳島町一丁目5番地他

**調査期間** 2002年4月1日～8月31日

**担当者** 近藤佳 前田綾 喜多 岩佐

**調査概要** 本遺跡は、徳島城の東側、徳島県立城東高等学校の敷地内に位置する。天正13年(1585年)豊臣秀吉から阿波国を与えられた蜂須賀家政が渭山(現在の城山)に城を築き、城下町の建設を進め発達した。調査地部分は、寛永年間(1624～1628年)の『御山下絵図』には「侍屋敷」と記される。元禄4年(1691年)と享保年間(1728～1730年)の『御山下絵図』には、500石取り程度の藩主の屋敷が、安永2年(1773年)に蜂須賀駿河喜儀(徳島藩家老)の屋敷が、安政年間(1854～1859年)『御山下絵図徳島』には「蜂須賀安芸」「坪内主水」「仁尾内膳」(家老・奉行職)と記され、上級武士の屋敷が構えられていた。

**遺構と遺物** 今年度の調査でも昨年度同様4時期の遺構面が確認された。第1遺構面(18世紀後半～幕末)では、礎石建物跡や蔵の基礎とみられる水路を伴う石列、「蜂須賀」「坪内」家との屋敷界を区画する石組溝、塙の基礎と考えられる石列のほか、貯蔵施設と思われる埋甕構を確認した。

第2遺構面(18世紀前半)・第3遺構面(17世紀後半)・第4遺構面(16世紀末～17世紀初頭)の各遺構面では井戸・池状遺構・溝・廐棄土坑・柱穴等が多数確認されている。出土遺物には蜂須賀の家紋入り軒丸瓦のほか日常生活用具などが多数出土した。

**まとめ** 昨年度に続き発掘調査を実施したが、徳島城侍屋敷地の中心を大規模に発掘調査できた事例は少なく、城下町の様相を把握する上で重要な資料が得られると共に徳島城城下町形成初期の様相を知る上で注目される。(近藤佳)



1 調査地点の位置(徳島)



2 第1遺構面完掘状況(西より)



3 第1遺構面屋敷境石組水路

## しきじ 敷地遺跡（第1分割）

**所在地** 徳島市国府町桜間 25-1 他

**調査期間** 2002年4月1日～2003年3月31日

**担当者** 新居 梶谷 豊田 大橋

**調査概要** 本遺跡は吉野川と鯛喰川によって形成された沖積平野上の標高5～6mに位置する。調査区の東側には西大堀川が南北に流れしており、調査地は微高地の北東端にある。

本年度の調査区は、古墳時代の住居跡群が確認された平成12年度から13年度調査区の北側に隣接した部分であり、集落が形成されていたと推定される微高地部分の北縁にあたる。この部分では古墳時代後期から平安時代の遺構面が確認された。また調査区の南東から微高地の縁を流れる流路を検出した。

**第1遺構面** 平安時代の水田面とそれを区画する溝状造構、幅約10mの流路を検出した。溝状造構は調査区内を東西に流れ、幅0.5～1m、深さ約0.5mの規模で2～3条が並行して検出された。これらはほぼN $10^{\circ}$ -Wの地割に直交する方向に掘られ、東側の流路に流れこむ。本調査区内ではそれぞれに南北に約40mの間隔にあり、条里の小区画を形成していたものと考えられる。しかし、これに対応する畦畔は確認できなかった。このほか、鎌倉時代に掘られたとみられる溝状造構も検出したが、この時期の遺構は一部の区域に限られていた。

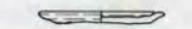
**流 路** 幅10～15m、深さ1.5～2mで、断面は逆三角形の流路である。土層堆積から埋没時期は大きく2時期に分かれる。上層は平安時代と考えられるが、下層には奈良時代の遺物が多く含まれる。調査区の東側を流れる西大堀川の分流と考えられ、北西方向への流れであったとみられる。北側には流路に沿って溝状造構が検出され、流路の埋没後にも同方向の小規模な流れがあったと考えられる。



1 調査地点の位置（川島）



2 第1遺構面完掘状況



0 10cm

3 SR1001出土遺物

**第2遺構面** 奈良・平安時代と古墳時代の2時期の遺構を重複して検出した。奈良・平安時代の遺構としては、掘立柱建物跡と土壙墓、溝状遺構が確認されている。古墳時代の遺構としては竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙墓、溝状遺構があげられる。

**掘立柱建物  
SA2007** 掘立柱建物跡SA2007は東西5間、南北2間で、ほぼN-10°-Wを軸にしている。柱穴は平面形が長軸約0.5~1m、短軸約0.5mの長方形で、深さ約0.5mを測る。柱穴は長軸が建物の壁に対して平行するよう掘られ、四隅の柱穴は壁に対して斜めに掘られている。SA2006では柱の抜き取り穴から須恵器の杯が出土した。この時期の建物は大型で、N-10°-Wの方向に沿って建てられているという特徴をもつ。

**土 壙 墓** 土壙墓と推定される平面形が長軸1.5m、短軸1mの長方形の遺構が多数検出された。遺物はほとんど含まれていないため、時期は不明である。土師器の杯が出土しているものもみられるが、古墳時代のものも含まれていると考えられる。

**竪穴住居  
SB2003** 竪穴住居跡が23軒検出され、このうち9軒に竈が残存していた。SB2003は一辺約6mの隅丸方形を呈する住居で、深さ約40cmを測る。北東方向に竈が設置されている。竈から北東方向に約12mの煙道をもつ。この他の住居では、煙道が地中トンネルのまま埋没した状態で検出されたものが2基確認された。

**掘立柱建物** 古墳時代の掘立柱建物跡は2間×3間の規模で、北東方向に傾いた軸方向に建てられている。柱穴も直径約40cm程度の円形で、奈良・平安時代のものと比べると小規模である。

**ま と め** これまでの調査で確認されていた古墳時代の集落は、今回その北限が明らかとなつたことで、南北約300mの範囲に営まれていたことがわかった。集落の東限は旧西大堀川の流路によって区切られており、西側に拡がりをもつものと予想される。

(大橋)



4 流路 (SR1001) 完掘状況



5 第2遺構面完掘状況



6 掘立柱建物跡群完掘状況



7 竪穴住居跡完掘状況

## しきじ 敷地遺跡（第2分割）

**所在地** 徳島市国府町池尻字西塚むさ 312 他  
**調査期間** 2002年4月1日～2003年3月31日  
**担当者** 木村 森岡 川村 梶河

**調査概要** 調査地は鯖喰川と吉野川に挟まれた沖積地で標高約48m～52mに位置する。これまでに調査された敷地遺跡の中で最も北縁にあたり、北側の池尻・桜間遺跡に隣接している。

今年度の調査では、古墳時代から平安時代にわたる4時期の遺構面と水田面が確認された。このうち、調査区北側では池尻・桜間遺跡から続く水田面が検出され、南側には敷地遺跡が形成された微高地の範囲が確認された。

**主な遺構** 微高地の第2遺構面（古墳～奈良時代）では、約80基の土壙墓とみられる遺構が検出された。これらは長軸1～2m、短軸1m、深さ約50cmの長方形であるが、遺構内からの遺物が少ないため構築時期は不明である。このうち約50基はほぼN-10°-Wを軸に2列で縦列しており、南北約50mにわたって続いている。またそれに隣接して周間に溝状遺構を伴う掘立柱建物跡を検出した。

第1遺構面（平安時代）では畦や溝状遺構によって区画された水田が検出された。また調査区の南端にあたる5区では、自然流路（SR2001）から加工木や木簡の削屑などが出土した。

**まとめ** 今回の調査では、敷地遺跡が形成された微高地の北限が判明し、その北側は水田として古代から耕作されていることが明らかとなった。この微高地上の古墳時代から奈良時代の遺構面からは、南北に延長50m以上に縦列して配置された土壙墓が検出されたが、このような配置は敷地遺跡の南の調査区でも認められ、当該地域の墓制の一形態として把握できる可能性がある。  
(木村)



1 調査地点の位置（川島）



2 土壙墓群完掘状況



3 掘立柱建物跡完掘状況

# てらやま山遺跡

**所在地** 徳島市八万町寺山71他

**調査期間** 2002年4月1日～2003年3月31日

**担当者** 井藤 森江 宮本 原

**調査概要** 本遺跡は園瀬川右岸の標高約45mの沖積地に位置し、室町時代から古墳時代後半の4時期の遺構面を確認した。調査地点の西に位置する独立丘陵の寺山には、平安時代創建の金剛光寺が所在したといわれ（『八万村史』1935）、奈良時代の複弁八葉蓮華文軒丸瓦（個人蔵）も採集されている。

金剛光寺に関する文献は残っておらず、伽藍等も不明であるが、京都市左京区花脊の峰定寺所蔵の梵鐘には「阿波國以西郡八万金剛光寺鐘 頤主三部阿闍梨耶実秀 永仁四年 歲次丙申十月五日 大工内蔵範領」の銘がみえる。戦国期に長曾我部元親が阿波に侵攻した際、焼失し廃寺になったといわれている。

**室町時代**

**鎌倉時代**

一括理納銭をはじめ、多数の柱穴群（掘立柱建物含む）や土坑群、寺域の区画と考えられる大溝、何らかの構造物の基礎と思われる石組遺構、大量の土師質土器を廃棄した土器溜まりなどが出土した。埋納銭については、発掘調査で確認され理納方法の詳細が判明した例としては本県では初めてである。

**埋納銭の**

**検出状況**

出土銭（埋納銭）の検出面は標高約3.7mを測り、暗灰黄色粘質土（遺物包含層）を切り込んだ土坑に納められていた。埋納坑は長軸36.6cm、短軸22cm、深さ6cmで、長方形の平面を示す。土坑堀り方いっぱいに縁になっていた銭が置かれていた。

**埋納状態**

**の復元**

検出時に上面の一部が遊離したが、見かけ上は2縁1対で5列4段に並べ重ねた状態が観察された。精査の結果、10縁（一貫縁）を一縁ごとに両端を結び目にして折り返し、2ないし3列4段にまとめた銭縁・10縁（一貫



1 調査地点の位置（徳島）



2 調査地点と寺山



3 第1遺構面全景（西より）

縒)をつくる。これを糸紐で固定し、計4單位の小口を揃え、全体を縄状のもので梶包して糸紐で束ねた埋納方法が採られたものと復元される。

**銭種と枚数** 53種3699枚を数える。北宋銭を主体とし、最古銭は五銖(後漢 初鑄年24年)、最新銭は至大通寶(元 初鑄年1310年)である。総重量は約13kgである。約40縒のうち1縒の枚数が確定した20縒が97枚(文)、99・96枚(文)が3縒、94枚(文)が2縒、98枚(文)が1縒あり、百文に満たない錢貨を百文に通用させる省百法が追認された。

**埋納銭の時期** 寺山遺跡の錢貨が埋納された時期は、最新銭の時期および海南町大里・徳島市一宮出土銭との比較などから一括出土銭時期区分の2期(14世紀第2四半期から同第3四半期)に収まるとみられ、大里・一宮出土銭と併せて本県では最も古い段階の埋納例と考えられる。

**奈良・平安古墳時代** 奈良・平安時代では、金剛光寺が創建されたと伝えられる時期にあたるため、創建時の様相が窺えられるものと期待されたが、当該期の遺物の出土がみられたものの、遺構の密度は希薄であったため、様相を明らかにはできなかった。なお今回の調査では、古墳時代後期の遺構面が存在することが新たに判明した。今年度は遺構の検出までに留め、次年度に継続することとした。

**まとめ** 寺山遺跡は金剛光寺と伝えられる地点に位置し、調査区南には「塔の下」・「仁王田」などの田名が残り、当該地域に金剛光寺が存在していた可能性は高い。今回の調査では、寺の存在を直接的に示す遺構・遺物は確認できなかったが、遺構・遺物の出土状況から寺院の関連する付帯施設あるいは門前市のような集落であったことも考えられる。遺跡の性格については、各々の遺構が遺跡の中でどのような意味を持つか今後の精査結果を勘案して明らかにしていきたい。

(原)



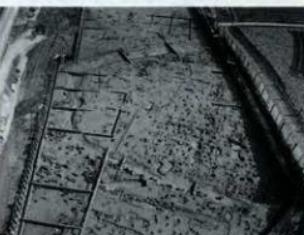
4 埋納銭出土状況(東より)



5 SK2403 遺物出土状況



6 SK2404 遺物出土状況



7 第2遺構面全景(西より)

# まち 町 口 遺 跡

**所在地** 板野郡吉野町西条字町口 34-3  
**調査期間** 2002年11月1日～2003年1月31日  
**担当者** 喜多 岩佐

**調査概要** 調査地は、吉野川下流北岸の後背湿地に面した微高地に位置し、標高は約12～13mである。今年度調査の1区は水田地帯に隣接する住宅跡地であり、2区は1区の南に隣接する平成13年度調査区と平成12年度調査区の間に位置する水田である。

**1 区** 地表から約2m下のシルト層上位において、古墳時代のピット・土坑・溝を検出した。

SK1008は、直径約90cm、深さ約60cmの土坑であり、土師器片（甕等）・須恵器片（蓋坏等）など約70点の遺物が出土した。調査区の中央から西側においては、遺構・遺物ともにやや密な状況で検出された。

なお調査区南西隅部の包含層には、砂礫が厚く入り込んでいた。これは吉野川の流路変更や氾濫等によって浸食されたものと考えられる。

**2 区** 中世とみられるピット・土坑・溝等を検出した。ほとんどの遺構は浅く、出土した遺物も土師器の小片がわずかであるため、時期決定にいたらなかった。

**まとめ** 平成10年度から13年度の調査において確認されていなかった古墳時代の遺構を、1区の調査で確認することができた。また調査区周囲の土層堆積状況から、包含層および遺構面の周辺への拡張も確認できた。

なお、1区の南に続く平成13年度の調査区において古墳時代の包含層が確認されなかつたのは、吉野川の氾濫等によって包含層が浸食されたためであると考えられる。（喜多）



1 調査地点の位置（川島）



2 1区遺構完掘状況



3 1区 SK1003 遺物出土状況

# くわの だに 桑野谷遺跡

**所在地** 阿南市桑野町字桑野谷他

**調査期間** 2002年7月1日～9月30日

**担当者** 林 小川

**調査概要** 調査地は阿南市桑野町と山口町に所在し、桑野川左岸の谷間に立地する。調査前の現地付近は水田と畑作地である。調査地の標高は18～19mを測る。

**主な遺構** 平成10年度の調査で流路(SX1001)が1条確認されていたが、今回の調査の結果、微高地際に南西から北東方向への自然流路の続きを確認できた。また、この流路は微高地の南側では池沼状に拡がっており、この底部から多くの遺物が出土した。出土遺物から、平安時代の自然流路であると考えられる。

**主な遺物** 遺物は須恵器・土師器・陶磁器・銅製品・鉄製品・木製品・木片・植物種子等で、総点数はおよそ17,000点である。

流路からは、少量であるが縁軸陶器の出土もみられ、付近に寺院が存在した可能性も考えられる。また調査区南西部の池沼部分(流路上流の比較的広くなった部分)で出土した厚さ0.3mmの板状銅製品は、全体の4割を欠損するものの、長径7.3cm、短径約6.0cmの楕円形に復元できる。これは寺院などの建物の装飾に用いられた飾り金具の一部ではないかと思われる。

**まとめ** 今回の調査によって検出することができたのは流路と、それに伴う遺物だけであったが、その内容から近辺に平安時代の寺院あるいは役所などの施設があった可能性がますます高くなかった。調査区の周辺はすでに工事が進んでおり、遺跡の全容を把握することは困難な状況であるが、今後出土資料の詳細な分析によって遺跡の性格が明らかにされるものと考える。

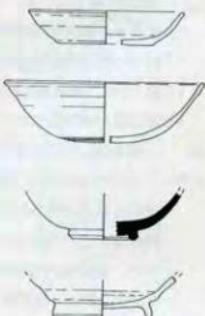
(林)



1 調査地点の位置(阿波富岡)



2 調査区全景(東より)



3 流路出土遺物

0 10cm

# たつえうまぶち 立江馬渕遺跡

**所在地** 小松島市立江町馬渕111他

**調査期間** 2002年4月1日～10月31日

**担当者** 須崎 前田隆

**調査概要** 本遺跡は小松島市の最南部、東西に走る立江向山地に挟まれた楔形の平地下流部に位置し、周囲を湿地帯に囲まれた標高約1mの微高地に立地する。調査の結果、平安時代の溝や掘立柱建物跡、鎌倉時代の小穴を伴う遺構面1面を確認した。

**2 区** 微高地上で溝4条、土坑8基、柱穴159基、自然路2条を検出した。

掘立柱建物は7棟復元できた。大きいもので桁行5間約11m、梁行2間約5m、小さいもので桁行3間約6.6m、梁行2間約3.4mを測る。棟方向は概ね3群に分けられるが、特にN-73°～75°-WやN-16°-Eを指す群は規模の大きな建物が多く、四面庇をもつとみられる建物も含まれる。

微高地の北側ではSD1006とSR1002が検出された。SD1006はN-64°-Wを指す溝で、幅は約3～4mを測る。上部は削平されたとみられ、最も深いところでも深さ約30cmほどである。SR1002は幅約25mの東西方向に流れていたとみられる自然路で、中央部の幅約10m、海拔約0.3～0.3m部分の埋土に木製品が多数含まれていた。

**3 区** 溝2条、土坑5基、小穴16基を確認した。このうちSK1008、SP1123の2基は鎌倉時代のものと考えられるが、他はすべて平安時代のものとみられる。掘立柱建物は1棟復元でき、調査区内では桁行3間約5.5m、梁行2間約3.6m、棟方向N-8°-Eが確認できている。SD1001はN-48°-Wを指す溝で、赤彩土器や須恵器等が出土した。

**主な遺物** SR1002から出土した木製品には、人形・



1 調査地点の位置（阿波富岡）



2 SD1006 検出状況



3 舟形出土状況



4 出土遺物

舟形・武器形・斎串など、飛鳥時代から平安時代にかけての木製祭祀具がある。

人形は立体人形に分類されるもので、芯持ち材に目・口を彫り込んだ杭状のものと、角材に彫り込んだものがある。武器形には鎌形・刀形があり、舟形には内部を削り込んだものと、材の削り残しの様子によって船体を表現したものの2種がある。後者は芯持ち材の前後に尖り気味に削り、上部に2箇所の刻みを入れて屋形船状に削り残すが、板目材を使用したものもある。

斎串には全体の形状が台形のものと、両端が圭頭で長いもの、上端が圭頭で下端を剣先状に成形したものがある。また両側辺肩部から1箇所ずつ切り込みを入れたものと、入れていないものがある。他に曲げ物等の容器も出土しているが、農具や工具はほとんど含まれていなかった。

### まとめ

立江地区は能路寺山古墳群、觀音山古墳、寺田山古墳群に隣接し、律令時代には那賀郡坂野郷の一部であったと考えられている。今回の調査では、平安時代以前にこの付近で木製祭祀具を用いた祭祀が行われていたことや、平安時代には大規模な掘立柱建物を伴う集落が形成されていたこと、鎌倉時代にも引き続きこの地で生活が営まれていたことなどが明らかとなった。徳島県内で木製祭祀具が多量に出土した遺跡としては、徳島市の觀音寺遺跡が知られているが、本遺跡でも出土遺物に縁釉陶器などがあり、銅製鉢や瓦などもみられることがから、古代の官衙や寺院との関連を持つ施設の存在を窺わせる。

勝浦川以南の地域では、これまで大規模な発掘調査がなく、中世以前の様子が明らかでない地域も多い。今回の調査は、文献で地域名や莊園名が知られる程度であった立江地区の歴史のみならず、県南部の歴史の一端を明らかにするものとして期待できる。(須崎)



5 SR1002 出土遺物

# た みや 宮 遺 跡

**所在地** 徳島市南田宮3丁目3-38他

**調査期間** 2003年2月1日～3月31日

**担当者** 須崎 前田隆

## 調査概要

本遺跡は船喰川と田宮川に挟まれた、標高約2mの沖積地に位置している。周辺では中世の大規模集落である中島田遺跡が知られるものの、現在では都市化の進展によって、近世以前の面影はみられない。平成9年度より行われている調査の第4次調査にあたり、これまでの調査で、中世の遺構・遺物が確認されている。

## 主な遺構

標高約0.8～0.9m地点で、鎌倉時代と考えられる遺構面1面を確認し、溝1条、土坑17基、ピット59基を検出した。

1区では調査区東端と西端に大きな攪乱があったため、遺構は中央部に限られた。土坑、ピットとも、深さ約20cm程度の浅いものが圧倒的に多い。SK1008は掘形の平面形が不明瞭で、深さも約25cm程度と浅かったが、完形の土師器皿や瓦器碗等が出土するなど、遺物は多かった。またSP1001とSP1002からは同一個体の青磁碗が分かれて出土した。

2区では、遺構は調査区西側に限られた。SD1002は東半部が近世遺構に削平されたとみられ、西半部しか残存していなかった。残存する深さは約60cmを測り、下部にはシミ等の貝殻が含まれる層がみられた。

## まとめ

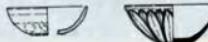
これまでの調査で確認された同時期の遺構面には自然流路が多い。今回生活跡が確認できたことで、田宮周辺の当時の地形や生活の様子を知るよい手がかりが得られた。本遺跡は、中世の大規模集落である中島田遺跡の東約3kmに位置していることもあり、中島田遺跡との関係の検討などができるれば、中世阿波の姿を知るよい資料となるだろう。（須崎）



1 調査地点の位置（徳島）



2 1区発掘状況



0

10cm

3 出土遺物



なか しょう ひがし  
中 庄 東 遺 跡

**所在地** 三好郡三加茂町中庄 445 他

**調査期間** 2002年4月1日～2003年3月31日

**担当者** 島田 深田 松田 采 喜多 岩佐  
近藤佳 前田綾

**調査概要** 本遺跡は吉野川中流域南岸、標高約66 mの河岸段丘上に営まれた古代から近世にかけての集落遺跡である。98年度からの調査により、和同開珎・丸柄・鏡像などが出土し、9世紀の条里溝や14世紀の方形区画屋敷地が確認されている。今年度は幅40 m東西500 mの範囲を西から順に1区から5区まで分割して調査を行い、遺構面を2面確認した。



1 調査地点の位置（池田）

**主な遺構** 第1遺構面では鎌倉・室町・江戸時代の遺構を検出した。4区では江戸時代の建物跡とみられる礫群の拡がりを検出した。4・5区北辺では流路SR1001を検出し、これに注ぐ溝の水口に室町時代とみられる護岸状石積みが検出された。第2遺構面では土壇墓570基、掘立柱建物跡18棟など飛鳥～平安時代の遺構を検出した。2～4区で条里溝を検出し、9世紀の遺物が出土している。



2 3区条里溝・掘立柱建物

**蕨手状銅製品** 4区SR1001から出土した鏡台の飾り金具である。長さ30cmで蕨手状に湾曲する銅製品で鍍金され、表面には唐草文が彫られる。16世紀末～17世紀初頭とみられる。



**花卉双蝶八花鏡** 3区SA2001EP 3直上から出土した直径6.9cmの唐式八花鏡である。本鏡は唐鏡を踏み返したもので、興福寺金堂出土鏡や正倉院伝世鏡など全国に8面の同型鏡が知られる。本鏡は柱の抜き取り後に埋置されたもので、建物撤去に伴う祭祀に用いられたと考えられる。



0 5cm

**まとめ** 今回は遺跡縁辺部の調査であったが、古代では鏡を用いた祭祀の資料を、近世では鏡台飾り金具というきわめて特殊な資料を得たことは非常に大きな成果である。  
(島田)

3 出土遺物（上：蕨手状銅製品、下：花卉双蝶八花鏡）

# ひがし しゅう ブ 東 州 津 遺 跡

**所 在 地** 三好郡池田町州津西ノ久保309番地1他

**調査期間** 2002年11月1日～12月31日

**担当者** 近藤佳 前田綾

**調査概要** 調査地は、吉野川上流域北岸に形成された河岸段丘上の標高86m付近に位置する。地理的には四国の中南部に位置しており、古くから阿波・讃岐・伊予・土佐を結ぶ交通の要衝として発展してきた。

今年度の調査地は、昨年度調査地の東側に隣接する部分である。

**遺構と遺物** 今年度の調査でも東西方向の自然流路SR1001が1条確認された。SR1001は東西長さ約30m、南北幅約10mと調査区のほぼ全体に検出された。SR1001の各端部の標高は北西843m、北東839m、南西839m、南東834mと西から東へ、北から南へ緩やかに傾斜している。また川底には大小多数の砂岩礫が敷き詰められたように出土しているが、これは自然の流れ込みによるものと思われる。

流路内の出土遺物は上層部では土師器片・須恵器片、中～下層にかけて土錐・弥生土器片のほか板状木製品・流木、サヌカイトおよびチャート製石礫が出土している。

**まとめ** 今回の調査でも調査区内を西から東へ、北から南へ緩やかに傾斜した自然流路1条が確認され、さらに東および南に向かって延伸することが確認された。また弥生土器片や石礫が多数出土したことから、調査地の周辺には弥生時代の集落が形成されていた可能性が高い。とくに阿讃山地の山裾から調査地の間、西は鮎苦谷川によって画された部分は傾斜が緩やかであること、またこれまでの調査によって検出された弥生時代の溝状遺構の配置から、調査地北側に集落が存在する可能性が非常に強まったといえる。

(近藤佳)



1 調査地点の位置（池田）



2 調査区全景（東より）



3 SR1001出土遺物

# ゆきちょうたい 由岐町田井遺跡

**所在地** 海部郡由岐町田井字久保688他

**調査期間** 2002年4月1日～6月30日

**担当者** 林 小川

**調査概要** 調査地は田井ノ浜の浜堤北側に位置し、旧潮田川右岸に形成された標高約3mの後背湿地上に立地している。標高2.0m前後の高さで縄文時代中期初頭を中心とする遺構面を確認した。

**主な遺構** 集石遺構・貯藏穴・池沼が検出された。調査区のほぼ中央で、直径2～4mの集石遺構が5基検出された。ここからは直径10～50cmの砂岩礫が多量に検出された。出土した礫の多くが川原石を磨石・叩石として使用したものであった。また、集石遺構の直上および周辺で焼土面と多くの遺物が確認された。遺構の検出状況から、何らかの生産に関わる遺構である可能性が高い。また、集石遺構の東側の土坑からは植物種子（椎）が出土している。

**主な遺物** 遺物総点数は40,000点を数える。その内訳は縄文土器・石斧・石鎌・石錐・スクレイパー・水晶線刻工具・三脚状石器・玦状耳飾・植物種子等である。

土器は、今からおよそ5000年前に遡る縄文時代中期初頭の形式である鷹島式・船元ⅠⅡ式を中心出土している。このうち鷹島式土器については、これまで県内ではほとんど出土例がなかった。船元Ⅰ式もまとまった数の出土は今回が初めてである。

磨製石斧は未製品を含め62点が出土した。乳棒状磨製石斧がほとんどを占め、定角式磨製石斧・扁平磨製石斧も少量ながら出土している。主に大型品は伐採用、小型品は木材加工に用いられたとみられる。石材としては結晶片岩がほとんどで、サヌカイト製・砂岩製も少量含まれる。また結晶片岩製の石斧素材



1 調査地点の位置 (日和佐)



2 調査区全景 (北から)



3 出土遺物 (縄文土器)

や未製品もみられ、本遺跡において石斧の製作が行われていたと考えられる。

石鏃は125点出土した。すべて打製で、長さ10~35cmの小型のものが多い。サヌカイト製が多く、本県南部秩父帶で産出するチャート製のものや滑石製のものが若干みられる。

石匙は24点出土した。縦型と横型の二種あり、ともに6~7cmの長さのものが主であるが、縦型では長さ14.5cmを測る大型品も出土している。石材としては、サヌカイト製が多く、チャート製のものも少量伴う。

珠状耳飾が7点出土している。うち3点は折損後勾玉として再加工されている。長さ2.5cm程度のものと、3.5~4.0cmのものの大小二種に分類できる。石材は北陸産の滑石のほか、蛇紋岩・結晶片岩を用いている。

水晶製線刻工具が1点出土している。やや純度の劣る水晶を素材とする。長さ2.4cm、幅1.5cmの七角柱を呈する。鋭利な頂部に摩滅痕（使用痕）が観察され、線刻工具として用いられたものと推察される。

凝灰岩製の三脚状石器1点が出土している。三叉状につくられた用途不明の打製石器である。

**まとめ** 本遺跡の中心となる年代は縄文時代中期初頭であり、この年代で多くの遺構に大量の遺物が伴う遺跡としては県内では初めての調査例となった。

結晶片岩製石斧やサヌカイト製石匙・石鏃など、遠隔地の石材を用いた石器の出土が目立つ。また土器の胎土に結晶片岩や角閃石を含有するものもみられる。石材の入手にあたって他地域との関係が想定され、海上ルートによる遠距離流通が行われていたとみられる。

今回の調査では住居跡など集落を構成する遺構は確認されていないが、遺物の出土量とその種類から、調査区近辺に大規模な集落域が存在するものとみられる。

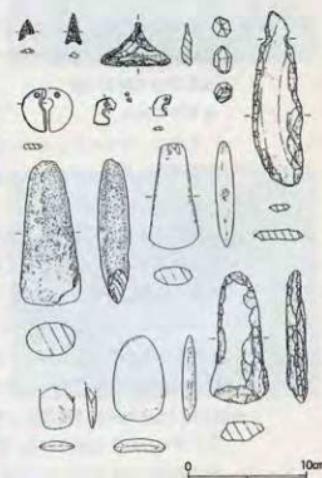
(林)



4 縄文土器出土状況



5 石斧出土状況



6 出土遺物（石器・石製品）

## 試掘調査

**所在地** 海部郡由岐町木岐字本村647-1他

徳島市八万町大野117-1他

**調査期間** 2003年2月1日～3月31日

**担当者** 喜多 岩佐

**由岐町  
木岐遺跡** 調査地は、木岐港に流れ込む木岐川の河口部に位置している。また由岐町の水源地に隣接しており、木岐川が調査区内を横切っている。

戦後の圃場整備以前は海拔2m前後の低地であり、湿地・湿田であったが、現在は水田や畑等に利用されている。調査地の現況は、資材置き場・畑・竹林である。

土層堆積状況は、基本的には耕作土・客土層、その下の砂礫層となっている。山際の調査地南端を除く砂礫層からは、多量の湧水がみられた。調査地北端のトレンチにおいてのみ、客土層と砂礫層の間に粘土層があり、粘土層下部において若干の炭化物が確認された。

現地表下1.5～3.0mの掘削を行ったが、包含層を確認することはできず、遺物も出土しなかった。

**八万犬山  
遺跡** 調査地は八万町大野地区の園瀬川と新川・多々羅川に挟まれた海拔0m前後の低地にある。古墳の存在が指摘されている通称「七ツ山」から南東に約100m離れている。『八万村史』によると、低湿地であったこの地域が田畠として開かれたのは江戸時代のことである。調査地の現況は水田および畑作地である。

海拔0m以上は近世以降の客土であり、0m以下は細砂等の自然堆積層である。調査地において包含層を確認することはできなかった。また、自然堆積層において若干の炭化物を確認したが、出土遺物は自然木を中心とした木片のみであった。  
(喜多)



1 調査地点の位置（日和佐）  
由岐町木岐遺跡



2 由岐町木岐遺跡調査区遠景



3 調査地点の位置（徳島）  
八万犬山遺跡

## 圃場整備事業関連調査

所在地 一覧表示

調査期間 2002年6月1日～2003年3月31日

担当者 喜多 須崎 林 岩佐 前田隆 小川

**立江柳ノ内遺跡** 本遺跡は小松島市の最南部、東西に走る立江向山山地に挟まれた楔形の平地の下流部に位置する。南北それぞれの山地の裾から張り出す海拔約1mの微高地と、その周囲の湿地帯に立地する遺跡である。

2区では、標高約13mの微高地上で溝5条、井戸3基、土坑35基、柱穴343基を確認した。井戸はいずれもSD1003の南側で検出され、約10m間隔でほぼ一直線に並んでいた。3基とも鎌倉時代のものとみられる。ただ井戸状遺構SX1001は、検出状況や埋土中の遺物から、廃絶した平安時代の井戸のすぐ側で、鎌倉時代に再掘削したものとみられる。

柱穴は直径約40～60cm、深さ約40～60cm程度のものが多くみられた。直径が小さく柱根が残存し、埋土中の遺物が少ないものと、直径が大きく柱根が残存せず、遺物を多く含むものがある。復元できる掘立柱建物は10棟で、棟方向がN-21～23°-EもしくはN-69°-Wを指すものと、N-73～75°-Wを指すものという2群に分けられる。桁行は大きいもので7間15m、小さいもので2間46mを測り、梁行は1棟を除いて2間で、34～50mを測る。

4区の湿地部では東西に伸びる幅約20mの自然流路を検出した。北側埋土中には土師器片・須恵器片が、中央部では木製品・流木等が多く含まれていた。また流路南岸では河川工事を窺わせる木組みを検出した。この流路は立江馬渕遺跡SR1002に対応するとみられる。

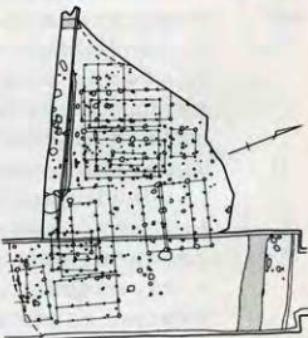
2区から出土した縁軸陶器は、近江産・京都系・東海産の3種類に分けられる。東海産とみられる椀には、見込みに陰刻花文が施さ



1 立江柳ノ内遺跡調査地点の位置  
(阿波富岡)



2 SX1001 検出状況



3 2区遺構配置および掘立柱建物  
復元案 (S=1/800)

れているものもみられる。これまで徳島県では京都系縦軸陶器の出土例が多く、東海産の出土例は徳島市国府町の矢野遺跡で数例知られる程度と少ない。また南海道沿いの遺跡での出土例もほとんどないことから、京都系とは異なる搬入ルートが存在した可能性も考えられる。

2区では石帶の一部も出土した。斑模岩製の巡方で、表面  $38.92\text{ mm} \times 41.03\text{ mm}$ 、裏面  $40.12\text{ mm} \times 41.19\text{ mm}$ 、厚さ  $6.17\text{ mm}$  を測る。裏面には四隅に約  $2\text{ mm}$  の孔が2ヶ所ずつ、計8ヶ所の孔が穿たれる潜り穴式となっている。

今回、立江地区の広い範囲で調査が行われた結果、平安時代の官衙関連とみられる施設群の存在を確認した。立江地区は、その立地から那賀郡や海部郡、土佐国へのルート上の重要な位置を占めることから、それに関連した施設が存在したことが想像できる。

また鎌倉時代以降、湿地に囲まれた微高地に集落が形成され始めたことを示す遺構を確認したことは、立江荘についての重要な資料として期待できる。  
(須崎)

#### 椿地遺跡

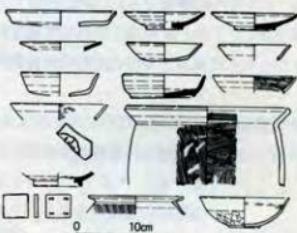
調査地は、福井川とその支流である椿地川の合流地点南部に位置している。調査の結果、福井川沿いの微高地において、中世のピットや土坑、樋等が検出され、土師器や瓦器等の遺物が出土した。

微高地の落込み部では、先端を加工した木杭約70本が、連続して打ち込まれた状態で検出され、護岸施設の一部ではないかと考えられる。また一部の遺構で柱根が確認されたことで、掘立柱建物の存在が窺われる。

『福井村誌』には鎌倉時代に「福井荘」の存在が記されているが、今回の調査では福井荘にせまる手がかりを得ることができた。なお椿地川沿いで遺構は確認できなかつたが、低湿地を客土によって耕地化してきた人々の努力を読みとることができた。  
(喜多)



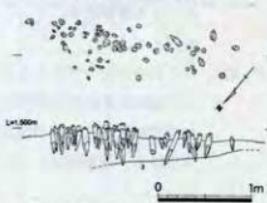
4 SP1169 遺物出土状況



5 出土遺物



6 椿地遺跡調査地点の位置  
(阿波富岡・日和佐)



7 椿地遺跡 SJ1001 平・断面図

## 遺跡地図整備事業

**調査地** 名東郡佐那河内村、名西郡石井町、神山町、麻植郡美郷村、山川町、川島町、鴨島町、板野郡北島町、松茂町、徳島市

**調査期間** 2002年4月1日～2003年3月31日

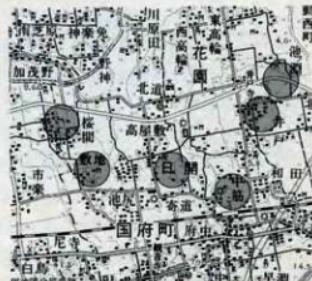
**担当者** 近藤 琳

**事業概要** 昨年度に引き続き、本事業は国庫補助対象の事業であり、徳島県教育委員会の委託を受け、財團法人徳島県埋蔵文化財センターが実施し、県内各市町村教育委員会にも協力を得ている。

**地図作成  
状況** 県下50市町村の地形図をデジタル化し、この地図上に遺跡位置情報等の入力を行っている。また、平成12～15年度の分布調査対象市町村の遺跡考古学データを入力している。

**分布調査  
成果** 今年度は約46㎢を分布調査した。松茂町を除くすべての市町村で、中世以前の遺物が採集されている。今年度の分布調査成果データと既存の考古学的データからすると、徳島市国府町と石井町、鴨島町、川島町、山川町は、縄文時代～中世の遺跡が、遺存状態良好な形で存在することが予想される。さらに、これら市町村の丘陵沿いでは、サヌカイト剥片を採集できる地点が、数ヶ所展開しており、吉野川南岸にも弥生時代の高地性集落や、縄文時代、旧石器時代の遺跡が存在することが充分に考えられる。したがって、以上の地域では、できる限り遺跡の現状を把握し、開発工事などによる遺跡破壊に対して、とくに注意が必要である。

**まとめ** これらのデータをもとに、平成14年度刊行の『徳島県遺跡地図検討用資料(県南版)』に掲載すべき遺跡範囲の認定作業を行い、次年度以降も、遺跡地図システムの構築を試行する。  
(近藤琳)



1 徳島市国府町遺物集中散布範囲  
(川島)



2 徳島市国府町櫻間採集須恵器



3 鴨島町上浦採集サヌカイト剥片

## IV 整理事業報告

今年度は、四国縦貫自動車道第11次区間（美馬～川之江）建設関連、四国横断自動車道（鳴門～板野）建設関連、一般国道192号線徳島南環状道路改築事業関連、一般公共事業関連など、8事業に伴う49遺跡の整理作業を行い、担当研究員20人、整理作業員延べ24,000人が従事した。

四国横断自動車道（鳴門～板野）建設関連では、3年間の整理作業の初年度を迎えた。本年度は、総数44遺跡の内、特に試掘調査を中心とした38遺跡の原稿執筆までの整理作業を行った。

四国縦貫自動車道（美馬～川之江）建設に伴う丸山遺跡では報告書の刊行を行った。また東原遺跡では、前年度に洗浄、注記、接合復元を終了し、本年度は遺物実測、遺物・遺構トレースの整理作業を行った。

一般国道192号線徳島南環状道路改築事業に伴う矢野遺跡II群の報告書を刊行するとともに、矢野遺跡I群では、報告書（縄文篇）を刊行し、報告書（弥生・古墳篇）刊行に向けて、遺物実測を中心に整理作業を行った。

一般公共事業関連の石井城ノ内遺跡では、平成3年度から平成13年度にかけて実施した発掘調査において確認された、縄文時代から近世にかけての遺構及び遺物について整理を行い、報告書を刊行した。

その他の遺跡の整理概要については一覧に表示した。

出土品整理業務一覧表

事業名	遺跡名	所在地	原因者	整理期間	整理担当者	遺跡の概要	整理概要	備考
私有住宅（石井曾我田地）建設工事	石井城ノ内	名西郡石井町石井字石井381-1他	住民調	2002/4/1~ 2003/3/31	岡山 高橋	縄文～弥生の集落 生産遺跡	報告書刊行	報告書は平成14年度に刊行
道路改築事業（宮川内千鳥塚伊弉諾塚）	町口	板野郡吉野町内条字町口33-3他	道路建設課	2002/10/1~ 2003/3/31	高橋	古代～近世の集落	図版作成まで	
地元公共施設安全部及び他の施設管理者事業（ヒンターハウス新館）	徳島市城下町	徳島市出島本町1丁目5番	徳島県公团施設局 障害者雇用促進協会	2002/1/1~ 2003/3/31	芦藤	近世の武家屋敷	報告書刊行	報告書は平成14年度に刊行
県代行緊急地方道路整備事業（町道元子町町内）	大柿	三好郡三好町元子町通2238番1他	道路保全課	2002/4/1~ 2003/3/31	佐藤	弥生～近世の水田	図版作成まで	
道路改良事業（岡口大刀野橋）	中庄東	三好郡三好町中庄431-1他	道路建設課	2002/4/1~ 2003/3/31	幸泉	古代の官衙	図版作成まで	
四国縦貫自動車道	兎川	美馬郡美馬町兎川45他	日本道路公团四国支社	2002/4/1~ 2003/3/31	久保藤	縄文～近世の集落	図版作成まで	
	西原	三好郡三好町大字足代西原768他			大北	弥生後期の集落	図版作成まで	
	東原	三好郡三好町大字足代東原960-1他			小泉	弥生～近世の集落	図版作成まで	報告書は平成15年度に刊行予定
	井出上	三好郡井川町西井川1490他			田川	弥生～古代の集落	基礎整理まで	
	大柿	三好郡三好町大字豊見字カラワケメシ他			栗林・植村 河野・四宮 氏家・野野 貞貢	弥生～中世の集落 生産遺跡	図版作成まで	報告書（古墳編）は平成15年度に刊行予定
	大坂西谷	板野郡板野町大坂字坂上20-1他						
四国横断自動車道	唄谷	板野郡板野町大坂字唄谷9-1他	日本道路公团四国支社	2002/4/1~ 2003/3/31				
	閑柱	板野郡板野町大坂字閑柱71-1他						
	金泉寺谷西古墳群	板野郡板野町吹田字平山152他						
	金泉寺谷東古墳群	板野郡板野町川端字中谷山22-8他						
	中谷山古墳（1）	板野郡板野町川端字中谷山20-1他						
	中谷山古墳（2）	板野郡板野町川端字中谷山20-1他						

事業名	遺跡名	所在地	原図者	整理期間	整理担当者	遺跡の概要	整理範囲	備考
四国横断白駄車道	中谷古墳（Ⅲ）	板野郡板野町川端字中谷20-1他	日本道路公团四国支社	2002/4/1~2003/3/31	金 森	古墳の横穴式石室墓	原稿執筆まで	
	川端奥郷	板野郡板野町川端字馬越 92-1他				古墳の横穴式石室墓		
	川端馬越古墳群	板野郡板野町川端字店上谷3-28他				古墳の横穴式石室墓		
	松西谷	鳴門市大麻町松子西谷山 18他						
	松はしまさき山	鳴門市大麻町松子西谷山 17-1他				弥生の高地性集落		
	松北山古墳群	鳴門市大麻町松子字16-26-17他						
	板東塚墓	鳴門市大麻町板東字西平草 136他						
	淨土寺山古墳群	鳴門市大麻町萩原字淨土寺 53他						
	西山田古墳（1）	鳴門市大麻町萩原字チコ谷 1-2他				古墳の横穴式石室墓		
	西山田古墳（2）	鳴門市大麻町萩原字チコ谷123-1他						
	力ネガ谷西古墳群	鳴門市大麻町萩原字ナガ谷 16-1他						
	延谷東古墳群	鳴門市大麻町萩原字延谷 3-1他						
	王子八幡神社古墳群	鳴門市大麻町萩原字王子谷 2-5他						
	長谷古墳群	鳴門市大麻町萩原字長谷 3-5他						
	瀧ヶ谷古墳群	鳴門市大麻町瀧谷字瀧ヶ谷 35他						
	中内	鳴門市大麻町瀧谷字中内 54他						
	勝明寺谷古墳群	鳴門市大麻町瀧谷字勝明寺谷 1他						
	瀧ヶ谷古墳群	鳴門市大麻町瀧谷字瀧ヶ谷 39他						
	袖もぎ古墳群	鳴門市大麻町瀧谷字袖もぎ谷 25他						
	東林院古墳群	鳴門市大麻町大谷字東林院 11他				古墳の横穴式石室墓		
	宇志比古神社古墳群	鳴門市大麻町大谷字山田 14-1他						
	大谷山田	鳴門市大麻町大谷字大谷 34他				古墳の横穴式石室墓、雙穴式石室墓		
	東山谷	鳴門市大麻町大谷字東山谷 22他						
	姫田宮尾神社古墳群	鳴門市大麻町姫田字三ヶ谷 123-1他						
	タキヶ谷古墳群	鳴門市大麻町姫田字三ヶ谷 15他						
	小森宮尾神社古墳群	鳴門市大麻町姫田字タキヶ谷 31他						
	宮ヶ谷古墳群	鳴門市大麻町宮ヶ谷 63他						
	大代谷	鳴門市大津町大代字大代谷 1008他						
	東口古墳群	鳴門市大津町大代字東口 11568-2他						
	日開谷東古墳群	鳴門市大津町大代字日開谷 1360他						
	原山古墳群	鳴門市大津町大代字原山						
一般国道192号線 地島南側伏原	矢野1番	徳島市阿波町矢野字青木401-1他	国土交通省四国地 方整備局	2002/4/1~ 2003/3/31	藤 川 本	國文～中世の集落	国版作成まで	

## V 埋蔵文化財センターの活動

平成14年度の普及啓発活動は、従来の業務を継承し、さらに来館団体の体験学習の開始や出張授業など新しい事業を加えながら活動を展開した。

展示部門は、常設展示室および実習室、図書閲覧室の管理・運営に加え、団体来館については、主として学校を対象に、火おこし・石器づくりの体験学習を始めた。

企画展としては恒例の速報展と3年目となる移動展を開催した。

その他、由岐町田井遺跡における現地説明会、中庄東遺跡（三加茂町）における发掘体験を伴う遺跡見学会、各種研修の受け入れ、各種研究会への参加（講師を含む）等の対外活動を行った。

資料の活用の面では、40件の貸し出しがありその中に、木簡レプリカの出品があった。その他実見、実測などの依頼もあった。また、前年度制作した移動教材セットの貸出しとそれを利用した出張授業を開始した。

近年漸減を続けていた来館者数は、体験学習の開始などもあって、本年度はやや増加となった。

### 1 企画展

#### (1) 速報展

埋蔵文化財速報展は、今年度は速報する内容が例年に比べて少なかったため、西山谷2号墳石室の移築に因んで、テーマ展示「阿波における古墳の発生」を企画し、これに速報展示の3遺跡を加えた2領域の展示とした。テーマ展示では初めて外部（高松市、さぬき市、徳島市）の各教育委員会から資料を借用、展示了した。

○会期：7月23日～9月1日

○期間中の来館者数：1223人

また、企画展期間中、展示に関連する内容で講演会・調査成果報告会を行った。さらに今年度初めて体験講座を開催した。それらの状況は以下の通りである。

期日	内 容	講 師	参加人数
7/28	古代体験会：火おこし 石器づくり	氏家・植地・青木	46名
8/3	調査成果報告会・展示解説	氏家・原・田川	50名
8/4	記念講演会・移築石室説明	菅原・原	71名

#### (2) 移動展

会 場	三加茂町立歴史民俗資料館
会 期	11月1日～11月14日
展示内容	
補持遺跡	中庄東遺跡 末石遺跡
中徳島町1丁目遺跡	
矢野銅鐸レプリカ・足代東原遺跡出土動物型土製品	
来 館 者	328名
関連行事	リレー講演会
会 場	三加茂町合同庁舎ふれあいプラザ
講 師	湯浅利彦氏（徳島市立高校）
	菅原調査課長、原研究員、
	大橋研究員、島田研究員
参加者	115人



企画展示風景



三加茂町移動展展示風景

#### (3) その他の企画

##### 名西高校文化祭における展示会と体験講座

期 間	9月10日～9月11日
展示資料	移動教材セットⅠ・Ⅱ
体験講座	火おこし体験教室

## 2 発掘現場における普及啓発活動

### (1) 現地説明会

遺跡名	由岐町田井遺跡
期日	6月22日(土)
内容	縄文時代中期を中心とする集落遺跡
参加人数	285名



現地説明会（由岐町田井遺跡）

### (2) 遺跡体験見学会

遺跡名	中庄東遺跡（三加茂町）
日時	8月23日(金) 9:30~11:40
内容	発掘調査の意義説明 中庄東遺跡の概要説明と体験発掘
参加人数	75名



遺跡体験見学会（中庄東遺跡）

### (3) その他の

学校による発掘現場の見学

遺跡名	期日	参加者	内容
敷地遺跡（徳島市）	6月19日(水)	名西高校3年 13名	見学・説明
敷地遺跡（徳島市）	6月20日(木)	城西高校2・3年 15名	見学・説明
敷地遺跡（徳島市）	9月12日(木)	城西高校2・3年 26名	見学・説明
敷地遺跡（徳島市）	1月16日(木)	城西高校2・3年 14名	見学・説明

## 3 来館者

月別来館者数一覧

月	小学生	中学生	高校生	一般	計
4月	180	3	0	191	374
5月	326	13	12	223	574
6月	50	3	82	273	408
7月	97	20	91	551	759
8月	109	20	7	769	905
9月	25	11	0	326	362
10月	234	34	2	901	1,171
11月	270	1	0	209	480
12月	15	3	32	185	235
1月	11	73	4	170	258
2月	11	72	1	174	258
3月	78	3	0	330	411
計	1,406	256	231	4,302	6,195

cf: 平成13年度来館者数 4,669人

来館団体の体験活動

利用団体	人数	期日	活動内容
北島小学校6年A組(北島町)	29名	4月17日	石器づくり
北島小学校6年B組(北島町)	28名	4月19日	石器づくり
北島小学校6年C組(北島町)	29名	4月24日	石器づくり
板東小学校6年(鳴門市)	65名	4月26日	石器づくり
板野東小学校6年(板野町)	71名	5月1日	石器づくり
大和小学校1~5年(山城町)	10名	5月16日	石器づくり
大野小学校3~6年(山城町)	35名	6月21日	石器づくり
鳴門市小学校社会科部会	19名	9月5日	火おこし
芝田小学校(小松島市)	42名	11月1日	火おこし



火おこし体験

#### 4 考古資料の活用

##### (1) 平成14年度 資料利用一覧

貸出資料	員数	貸出先(申請者)	掲載書籍・作品等
観音寺木簡(習書木簡)写真	2	椎山川出版	山川『新体系日本史16』掲載
矢野遺跡土器棺・遺跡写真他	6	徳島市教育委員会	企画展展示・図録掲載
観音寺木簡(論語)写真	1	岐阜県歴史資料館	『岐阜県教育史』通史編掲載
西山谷・大代古墳写真	2	徳島県立博物館	人文部門バネル展示
観音寺木簡(論語)写真	1	椎山川出版	山川『日本史リブレット9』掲載
観音寺木簡(論語)写真	1	国際航業	『文化遺産の世界』第5号
矢野銅鐸及び埋納坑写真	2	大巧社	小学館『僕と歩こう全国50遺跡』
横断道外棺使用写真一式	31	文化映画社	ビデオ『よみがえる古代の息吹』
矢野銅鐸写真	1	株飛鳥企画	角川『古代王権の誕生!』掲載
観音寺木簡(「ア」「マ」)写真	4	株セレプロ	『映像考古学』広告物掲載
大柿遺跡棚田写真	1	徳島県立博物館	図録『海道をゆく…』掲載
矢野遺跡資料一式	145	徳島市教育委員会	企画展『矢野遺跡…』展示 図録
田井遺跡遺物写真バネル	6	NHK 徳島放送局	放送番組『てれごじ』使用
観音寺遺跡遺構写真	2	株セレプロ	『映像考古学』広告物掲載
徳島城下町遺跡陶磁器	37	日下正剛	講演時の提示
大柿・都頭・船持・矢野遺跡写真	5	国土交通省徳島工事事務所	通信誌『ふるーぶ』掲載
磨製石砲丁・石斧写真	3	下関考古博物館	企画展『瀬戸内海…』展示・図録
日吉谷遺構・遺物実測図	13	株溪水社	竹広氏『サヌカイトと先史社会』
観音寺木簡(国守・和歌他)写真	4	木簡学会	『続日本古代木簡選』
観音寺木簡(論語・和歌)写真	2	徳島県立文書館	常設グラフィック展示
観音寺(正面視他)写真	10	株セレプロ	映像資料掲載
弥生時代関連資料写真	35	小学校	小学校『考古資料大観』
庄遺跡舟形写真	1	徳島県立文書館	常設グラフィック展示
観音寺木簡赤外線写真	2	木簡学会	小学校『考古資料大観』
城ノ内遺跡遺物写真	238	徳島市教育委員会	企画展『「・徳島城」展示・図録
観音寺木簡(論語)写真	1	朝日新聞社	『週刊朝日百科 日本の歴史』
観音寺木簡・大代石棺写真	2	仰ぐ一企画	『映像考古学』解説冊子
矢野銅鐸写真	1	株学生社	一宮市博物館シンポジウム記録
遺跡写真一式	18	早瀬隆人	徳島新聞『徳島の史跡50選』
観音寺木簡(和歌)写真	1	角谷間書院	『アボリアとしての古代』
観音寺木簡(税・論語他)写真	4	株吉川弘文館	『日本の時代史』第3巻
新蔵1遺跡遺物写真	1	株河原書店	河原『高麗茶碗論考と資料』
観音寺木簡(税・国守)写真	2	吉見哲夫	中学生用副読本『徳島の歴史読本』
新蔵1・3・南前川1大谷焼	13	日下正剛	講演時の提示
矢野銅鐸写真	1	県教委学校教育課	中学生用副読本『徳島の歴史読本』
企画展図録掲載持鉤・写真	6	米澤千代子	民俗書『くらしの風景』
船持・矢野・西原遺跡他遺物写真	35	徳島県教育委員会	企画展『ヒスイに…』展示・図録
弥生・古墳時代関連資料写真	20	小学校	小学校『考古資料大観』
矢野銅鐸・御船屋跡写真	2	徳島市立高校	市校図書研究誌『市校図書』
田井遺跡現況資料掲載図面	3	宮本正文	中学校研究誌『阿波のあゆみ』
田井遺跡縄文土器石器類	15	早瀬隆人	由岐町教委講演提示資料

##### (2) 移動教材セットの活用状況

利用機関(担当)	期日	活動内容(担当者)	対象
六吹小学校(長谷教諭)	5月14日	出張授業(青木・貞野)	6年33名
入田中学校(朝日教諭)	5月15日	出張授業(青木・島巡)	1年15名
太田小学校(森本教諭)	5月21日	出張授業(青木・貞野)	6年生11名

利用機関(担当)	期日	活動内容(担当者)	対象
島田小学校(谷教諭)	5/22	出張授業(青木)	5、6年5名
柳沢小学校(岸本教諭)	5/29~6/1	貸し出し	
上勝中学校(福良教諭)	6/1~6/10	貸し出し	
椿小学校(森下教諭)	6/5	出張授業(青木)	6年生13名
鶯敷小学校(勘田教諭)	6/13	出張授業(青木)	6年生20名
名西高校(釜床・山本教諭)	9/10, 11	展示・体験(青木・島巡)	全校生徒
鳴門工業高校(日下教諭)	11/20~11/27	展示	
徳島中央高校(笠井教諭)	12/2	出張授業(青木・島巡)	2年生19名

## 5 各種研修の受託

### 受託研修会

期日	研修会名	内 容	参加人数
8月1日	初任者研修講座(企業等研修)	講話・発掘現場整理現場の作業体験	25
6月26日	職場体験学習(板野中学)	整理作業実習	1
6月27日	高校地歴学会研修	展示室・整理作業現場見学	23
12月12日 13日	インターンシップ(板野高校・城南高校)	講話および発掘現場整理現場の作業実習・体験学習	16
9月26日	第1回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会	田崎博之氏(愛媛大教授)講演	43
2月12日	第2回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会	4か町村担当者の報告と文化財課の講話および意見交換	26

## 6 職員の对外活動

### (1) 各種研修会等への参加(講師を含む)

期日	内 容	参 加 者
5/1	日本考古学協会総会	氏家敏之
6/12~14	全埋協総会	本庄敏之・島巡賀二・福本紀美子
6/17	考古資料館資料展示検討委員会	菅原康夫
7/5~7	日本文化財科学会	植地岳彦
8/1	小松島ふるさと講座講演	近藤 琴
8/23	由岐町サマースクール講師	林 賢彦
9/17	阿波国分寺跡史跡整備策定委員会	本淨敏之・菅原康夫
9/19	埋蔵文化財担当職員講習会	菅原康夫・原 芳伸
9/5, 6	全埋協コンピュータ委員会中四九州ブロック	貞野保仁・植地岳彦
10/24, 25	全埋協中・四・九ブロック会議	西村和博・貞野保仁・藤川智之
10/24	石井ふるさとの歴史を学ぶ会講師	幸泉満夫
10/16~18	全埋協研修会	山本高史・近藤 琴
11/7, 8	四国埋文法人務担当者会	氏家敏之
11/10	移動展示リレー講演会	菅原康夫・原芳伸・大橋育順・島田豊彰
11/6, 13, 27	名西高校「阿波文化史」講師	岡山真知子
11/30	吉野川現地講座講師	島田豊彰
12/17	シルバーハウス特別講座	菅原康夫
1/14~24	H.14埋文発掘技術者専門研修	幸泉満夫
2/7	全国史跡整備市町村協議会支部会	岡山真知子
2/19~26	文化財発掘技術者専門研修会	田所實治
2/25	外部講師招聘事業(土高校)	田川 恵・大北和美

### (2) 各種委員の任命状況

国分尼寺跡史跡整備検討委員 徳島市立考古資料館資料検討委員 藍住町文化財審議委員	本淨敏之・菅原康夫 菅原康夫 氏家敏之
--	---------------------------

## 7 地方教育教材整備事業

今年度は県内の国指定6件、県指定26件、計32件の史跡を紹介するCD-ROM『探訪！ふるさとの史跡』を制作し、教材用として各学校に配布した。平成4年度に県教育委員会は県内の文化財を一覧できる『徳島の文化財』という書籍を出版しているが、広く配布するものではなかったため、この書籍をもとに、今回普及版としてCD-ROMを制作したものである。史跡の存在を知り、保護意識を啓発するという趣旨で、県内の小・中・高校、市町村教育委員会、その他関連機関に配布した。



教材 CD-ROM『探訪！ふるさとの史跡』

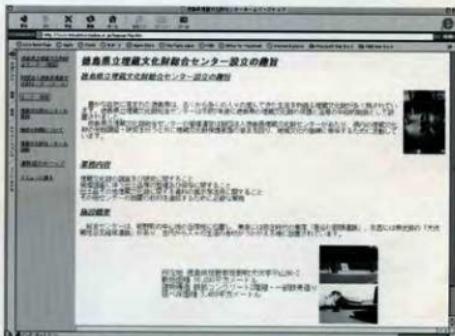
## 8 ホームページ管理

開設2年目となる。

○アクセス数：4129

○更新回数 18回

本年度より遺跡紹介ページを順次追加中。



ホームページ更新画面

## 9 本年度受贈図書数 2,029冊

### 10 本年度刊行物

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第33集

『矢野遺跡（Ⅰ）徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告 第2・3分冊』

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第44集

『矢野遺跡（Ⅱ）徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査報告 縄文編』

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第45集

『丸山遺跡 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告 23』

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第46集

『石井城ノ内遺跡 県営住宅（石井曾我团地）建設工事関連埋蔵文化財調査報告』

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第47集

『徳島城下町遺跡 徳島公共職業安定所および徳島障害者センター庁舎新營地における埋蔵文化財調査報告』

**徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.14**  
—平成 14 (2002) 年度—

平成 15 年 6 月 30 日

**編 集** 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
〒 779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 番 2  
TEL (088) 672-4545 FAX (088) 672-4550  
<http://www.tokushima-maibun.or.jp>  
E-mail awapac1@ma5.justnet.ne.jp

**発 印 行 刷** 徳島県埋蔵文化財研究会  
飼徳島印刷センター  
〒 770-8056 徳島市問屋町 165 番地  
TEL (088) 625-0135 FAX (088) 622-0734